

やすらぎの会



2021 (令和3) 年 10 月号
新座市精神障害者家族会 やすらぎの会
〒352-0023 新座市堀ノ内3-4-11
社会福祉法人にいざ内
第 253 号 電話 048(482)5155
10月10日 (日)

野火止一丁目集会所 出席会員 11名

10月例会報告

10月半ばに入ったとはいえ、ここ連日結構暑い日が続いています。集会所の窓もすっかり開け、風通しをよくして例会が始まりました。直前に開かれた調布市文化会館での「みんなねっと東京大会」の基調講演：白石弘巳先生の「当事者・家族が生き生きと地域で暮らしていくために～医療と福祉の連携～」の報告。先生のお話の中で平成 21 (2009) 年にみんなねっとが公表した 7 つの提言が、まだ実現していない問題にも言及されていました。その内容は、①本人・家族のもとに届けられる訪問型の支援・治療サービスの実現、②24 時間・365 日の相談支援体制の実現、③本人の希望にそった個別支援体制の確立、④利用者中心の医療の実現、⑤家族に対して適切な情報提供がされること、⑥家族自身の身体的・精神的健康の保障、⑦家族自身の就労機会および経済的基盤の保障です。

白石先生は、ソフトボール監督のコトバを会員の方々に届けたいと次のコトバを紹介されました。「夢をもって生きていけば人と人が結びつく。縁から始まる人生がある」 含蓄のあるコトバですね。

例会では一人一言の近況報告をしました。特に変わりなくという方もある一方、なかなかよい方に進まないという悩みも出されました。

『改革が避けられない日本の精神医療』の学習は 1958 年の政府による 3 つの (深刻な病床不足解消のための) 優遇策について学びました。(1)精神科特例で一般病院より少ない職員数でも可能、(2)医療金融金庫 (という銀行よりも有利な条件) で病院開設や増床の資金調達が可能に、(3)措置入院の「経済措置」(家族はお金に心配しないで入院させることができた) で在院患者の確保を支援。次回 11 月は「二重の格差」を抱える日本の精神医療 [11 ページ] からです。12 ページの「国内の一般医療との格差」までの予定。

みんなねっと東京大会 特別講演

首都東京の精神医療を考える ～都立松沢病院の取り組み

名誉院長 齊藤正彦氏

みんなねっと東京大会 (調布市) では、後半、齋藤先生のお話がありました。私の印象に残ったところを紹介します。齋藤先生は 2012 年 7 月から 2021 年 3 月まで松沢病院の院長をされました。その経営目標が下記の 4 つです。①民間医療機関の要請を断らない、②患者さんに選ばれる病院を作る、③業務改善によって働きやすい職場を作る、④地域を支え、地域に支えられる病院を作る。このうち①と②はかなり達成できたが、③と④は道半ばだそうです。民間病院で手を焼いている治療の難しい患者さん、家族とのトラブルの多い患者さんを松沢病院が引き受けることは、民間病院の負担を減らすことになり、それは民間精神科病院の診療の質を上げることに貢献し、結果的に東京の精神医療の底上げにつながる。入院した後に受ける治療が患者さんにとって心地よいものであれば、次に症状が再燃しかけたとき、薬をやめ、さらに状況を悪化させるのではなく、自分の意思で病院に行って休息入院しようと思ってもらえる。そうなれば統合失調症のような慢性の病気の生涯予後も改善するはずですよ。

先生は、行動制限の最少化ということも話されました。* 24 時間隔離をなくす、* 拘束の最少化、持ち物制限の最少化、例えば持ち物では【刃物、ロープ、タバコ、ライター、ガラス瓶、工具以外は無制限】です。

身体合併症医療、精神科 3 次救急医療、重度慢性医療は、経営的即面から診ると不採算部門のワースト 3 ですが、松沢病院がこれまでこれを担ってこられたのは、他の国立や自治体立病院が次々と独立行政法人化して、採算を重視するようになっていったのに対し、松沢病院が都の直営を維持し、行政医療に採算を求められなかったからだと言っています。

都立病院は今、独立行政法人化を目指していますが、そうすると病院の事務管理は現在と同じ公務員が 2 年周期で担うことになり、これから数年すると、松沢病院のパフォーマンスも変化する可能性があると言っています。 M.I

参考図書のご紹介・・・『都立松沢病院の挑戦』岩波書店刊
齊藤正彦著 182 ページ 1,980 円 2020 年 11 月発行

研修会等のご案内

埼玉家連主催 研修会 (共同募金助成事業)

『統合失調症における薬剤選択とアドヒアランス』

講師: 吉尾 隆 氏

日時: 12月9日(木)

会場: 狭山市民会館 第4会議室

※詳細は11月例会でお知らせします。

埼玉県障害者協議会主催 研修会(共同募金助成事業)

『ソーシャルファームを目指した働く場づくり』

【注】ソーシャルファームとは: 障害や生きずらさを抱えた人が所得を得られて安心して働ける場所

講師: 上野 容子 氏(東京家政大学名誉教授)ほか2名

日時: 11月6日(土) 13:30~16:00

会場: 上尾文化センターホール

埼玉家連主催 作品展示会、自立生活交流会(社会参加推進事業)

日時: 2022年1月25日(火) ~27日(木) 交流会は1月27日

会場: ウェスタ川越

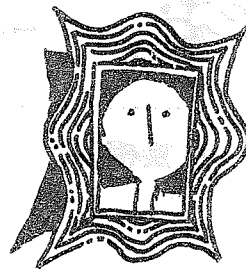
精神障害者および家族の作品(絵画・写真・書道・手芸・陶芸など)

※参加作品の募集が始まりました。締め切りは年明けの1月10日です。

コロナ自粛中の作品などありましたら奮ってご応募ください。

出品者には謝礼として500円のクオカードを差し上げます。

募集要項が必要な方は、一之瀬まで申し出てください。



第75回こんぼ亭 オンラインで開催

7000人の声は教えてくれる

~精神科医療の「謎」と進むべき道~

演者: 夏苺 郁子さん(やきつべの径診療所・児童精神科医)

日時: 12月1日(水)19:00~21:00(夜の開催です)

参加費: 賛助会員1500円 一般2500円

※当日に視聴できなかったときは、参加申込者に限り後日ウェブサイトにて

視聴することが出来ます。申込締切日は11月28日(日)

詳しくは第75回こんぼ亭で検索 お問い合わせは☎047-320-3870

【今後の予定】

- 10/15 (金) Bブロック会議 13:30~ (ウェスタ川越)
- 10/15 (金) 第68回全国精神保健福祉全国大会 (県民健康センター)
- 10/16 (土) リカバリー全国フォーラム2021 10:00~17:00 (オンライン)
- 10/21 (木) 法人にいざ施設運営委員会 10:00~12:00 (社協会議室)
- 10/21 (木) 法人にいざ広報委員会 13:30~ (社協会議室)
- 11/06 (土) 県障害者協議会地区研修会 13:30~16:00 (上尾文化センター)
- 11/12 (金) 11月例会 14:00~16:00 (野火止1丁目集会所)
- 11/19 (金) 埼玉家連役員会・理事会 10:30~15:00 (県交流センター)

11月例会のお知らせ

日時: 11月12日(金) 14時~16時

場所: 野火止1丁目集会所

内容: ・語り合い

・学習「改革が避けられない日本の精神医療」

11月はテキスト11ページから学習します。

※前にお渡ししたテキスト(冊子)をご持参ください

(頂いていない方は当日用意します) 役員会 12:30~

家族相談

家族相談はしばらくの間、電話相談になります

(随時受付)

080-1053-7816 (鶺鴒) 090-9248-5343 (矢野)

080-5007-5722 (井戸川) 080-3026-2377 (浅野)

※埼玉家連の「心をつなぐ家族電話相談」もご利用ください

☎ 080-6685-2128 (携帯)

相談日 毎週 月~木(金、土、日、祝日は休み)

10:00~12:00 13:00~15:00

